

R02a **VERA による星形成領域 IRAS20126+4104 の位置天文観測**

永山匠 (国立天文台)、面高俊宏、半田利弘 (鹿児島大)、VERA プロジェクトチーム

VERA (VLBI Exploration of Radio Astrometry) は、相対 VLBI により銀河系内のメーザー源を伴う星形成領域や晩期型星の年周視差、固有運動計測を行い、銀河系の 3 次元立体構造と運動の解明を目指したプロジェクトである。本講演では、星形成領域 IRAS 20126+4104 の観測結果について報告する。

VERA を用いた 2009 年 9 月から 2010 年 12 月までの 5 回のモニター観測により、IRAS 20126+4104 の年周視差と固有運動の計測に成功した。年周視差は  $0.554 \pm 0.062$  mas、距離で  $1.81^{+0.22}_{-0.19}$  kpc に対応する。計測された距離は、VLBA の年周視差測定の結果と一致する。IRAS 20126+4104 の銀河系内での運動を調べたところ、北銀極方向に約  $17 \text{ km s}^{-1}$  の特異運動を持つことがわかった。IRAS 20126+4104 は天球面で Cygnus superbubble の方向に位置する。距離も Cygnus superbubble の距離に不定性があるものの、400 pc 以内で一致する。観測された IRAS 20126+4104 の特異運動ベクトルの起点は、ヒッパルコスで測定された Cygnus superbubble の OB 型星の膨張運動の起点と一致することがわかった。また、今回の距離測定により IRAS 20126+4104 は local arm に位置するがわかった。これまでに年周視差で測距された星形成領域 25 天体と合わせて local arm の構造も調べた。本講演では superbubble と local arm の構造について発表する。